

アイヌ生活文化再現マニュアル

身を  
護るもの  
平取地方



公益財団法人アイヌ民族文化財団

アイヌ生活文化再現マニュアル

# 身を護るもの

## 平取地方

ホシ・サコシ・チカミコテ・コンチ・ユクウル



## 発刊にあたって

公益財団法人アイヌ民族文化財団は、1997年（平成9年）より、アイヌ文化等に関する研究の推進、アイヌ語を含むアイヌ文化の振興やアイヌの伝統・文化に関する知識の普及・啓発を進めるため様々な事業を展開しております。また、2019年（令和元年）5月には「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」に規定された業務を行う全国唯一の法人として指定を受け、2020年（令和2年）7月に開業した「民族共生象徴空間（ウポポイ）」の管理業務を行っています。

この「アイヌ生活文化再現マニュアル」は、アイヌ文化伝承再生事業の一環として行っているもので、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的として作成したものです。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の発展が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

## 目 次

発刊にあたって

|                          |    |
|--------------------------|----|
| はじめに .....               | 7  |
| 作者紹介 .....               | 9  |
| <b>ホシ (脚絆)</b> .....     | 10 |
| 材料・用具 .....              | 11 |
| 製作                       |    |
| 1 本体 .....               | 12 |
| 2 紐の取り付け .....           | 13 |
| 3 オホカラ .....             | 15 |
| 4 キラウ .....              | 17 |
| 5 刺し子模様 .....            | 18 |
| 6 完成 .....               | 19 |
| <b>サコシ (夏用の脚絆)</b> ..... | 20 |
| 材料・用具 .....              | 21 |
| 製作                       |    |
| 1 オヒョウを裂く・撚 (よ) る .....  | 22 |
| 2 オヒョウを結ぶ .....          | 23 |
| 3 ピッ (錘り石) に糸を巻く .....   | 24 |
| 4 イテセニ (ござ編み機) で編む ..... | 25 |
| 5 仕上げ・糸の始末 .....         | 29 |
| 6 完成 .....               | 31 |
| <b>チカミコテ (手甲)</b> .....  | 32 |
| 材料・用具 .....              | 33 |
| 製作                       |    |
| 1 本体 .....               | 34 |
| 2 指先 .....               | 37 |
| 3 手の平の刺繍 .....           | 38 |
| 4 手の甲の刺繍 .....           | 39 |
| 5 紐の取り付け .....           | 41 |
| 6 仕上げ .....              | 43 |
| 7 完成 .....               | 44 |

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| コンチ (頭巾) .....              | 45 |
| 材料・用具 .....                 | 46 |
| 製作                          |    |
| 1 本体 .....                  | 47 |
| 2 生地 (前・後) の取り付け .....      | 49 |
| 3 切り抜いて模様を作る .....          | 51 |
| 4 バイアス状のテープで模様を作る .....     | 53 |
| 5 刺繍 (オホカラ・イカラリ・エタラカ) ..... | 57 |
| 6 紐・飾りの取り付け .....           | 61 |
| 7 完成 .....                  | 64 |
| <br>                        |    |
| ユッウル (鹿皮衣) .....            | 65 |
| 材料・用具 .....                 | 66 |
| 製作                          |    |
| 1 素材を切って留める .....           | 67 |
| 2 かがり縫い .....               | 68 |
| 3 紐を取り付ける .....             | 70 |
| 4 完成 .....                  | 73 |
| <br>                        |    |
| おわりに .....                  | 74 |
| <br>                        |    |
| 参考文献 .....                  | 75 |
| <br>                        |    |
| アイヌ文化について知ることができる施設 .....   | 76 |

凡 例

- ・映像編に入れることのできなかつた解説等も記しました。したがって、映像編と文言等で一部異なる個所があります。
- ・アイヌ語はすべてカタカナで表記し、現在各地域で伝承されている言葉で記載しております。



## はじめに

アイヌ民族は、生活する範囲の中で手に入れる事のできる、動物の毛皮や魚皮、樹皮、草の繊維などの素材を使って衣服のほか、頭や手や足を部分的に保護する脚絆や手甲などの装身具も数多く作りました。

この「身を護るもの」は、本来は労働や旅に出る時などの日常生活に用いられましたが、アイヌ民族は刺繍で模様を施し、装飾品の一つともしました。

本マニュアルでは、アイヌ民族が身につけたホシ(脚絆)、サコシ(夏用の脚絆)、チカミコテ(手甲)、コンチ(頭巾)、ユクウル(鹿皮衣)の作り方を紹介します。

ホシは、鎖状の模様オホカラと、刺し子模様が入った脚絆です。サコシはオヒョウで作った夏用の脚絆。イテセニという編み機を使って編みます。手を護るチカミコテには、強度を高める工夫と、細やかな模様が施されています。頭の前から首元まですっぽり覆うコンチ。切り抜いた模様と上から貼り付ける模様、立体的に重なり合う美しいデザインが特徴的です。鹿の皮を使ったユクウルは簡易的な作業着ですが、大変あたたかく、寒い季節の防寒着として優れたものでした。



今回は萱野れい子さんが、身を護るものを5点製作します。れい子さんが、平取地方のフチ(おばあさん)たちから学んだ作り方や、自身が萱野茂二風谷アイヌ資料館を開設する際に製作した作品を参考に、2021年(令和3年)12月に完成させました。



## 作者紹介



萱野 れい子

1931年(昭和6年)生まれ。北海道沙流郡平取町二風谷在住。

各地の大学や博物館などから依頼されたアイヌ民具を協力して作るなど、アイヌ民具やアイヌ語等の保存・伝承に尽力した夫である茂さんの公私にわたる仕事を支えてきた。チェブウルなど、製作技術の分からなくなった民具を、制作方法を研究して復元したものもある。女性の手仕事とされる民具全般を行うが、特に刺繍を入れるアイヌの着物やアットゥシ織、トマ編みなどを得意とする。

90歳を超えた現在も、教室などで手仕事を教え、アイヌ文化の人材育成に尽力している。

## ホシ（脚絆）



写真1

ホシは脛(すね)に付ける脚絆です。今回は木綿の布で筒状の形をしたものにオホカラと刺し子を施します。

昔の着物、特に男性が猟に行ったり、作業時に着る着物は、丈が短く膝頭が隠れるぐらいの長さしかなかったため、脚絆は大切なものでした。

履きやすいように上を割っており、脚を入れてから上下の紐を締めます。また、脚絆は男性だけではなく女性も付けました。

今回は縦33cm・横21cmのホシを製作します。30年以上前に萱野れい子さんが作成したものを参考にしています。

## 材料・用具



写真2

(片足)

表地 木綿布(紺) 縦35cm・横(上)50cm (下)40cm……………1枚

裏地 木綿布(白) 縦35cm・横(上)50cm (下)40cm……………1枚

紐用の布 縦4.5cm・横1m……………1枚

刺繍用の木綿糸(紺)(白)

レース糸(白)

針

はさみ

定規

チャコペン

# 製作

## 1 本体

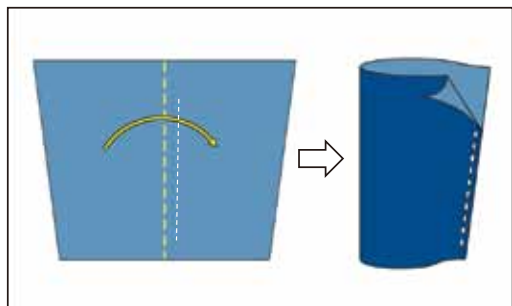


図1

紺布を裏返して2つに折り、なみ縫いをします。膝上から10cm部分は縫いません。白の生地も同様にします。



写真3

紺の生地と白の生地を向かい合わせて、なみ縫いをします。同じく膝上から10cm部分は縫いません。



写真4



写真5

縫い終わったら紺布の中に白生地を入れるようにして裏返します。



写真6



写真7



写真8

1cm折り込んだ後、裏に返して、縫わないでとっておいた10cmの部分をなみ縫いして、紺の生地と白の生地を縫い合わせます。

## 2 紐の取り付け



写真 9

紐用に用意した紺の布を裏返した状態で半分に折り、膝上に重ねます。



写真 10

本体と重ねた部分を1cm縫い代をとってなみ縫いします。



写真11

写真 12

内側に2度折り込んで1.2cm幅の紐にします。

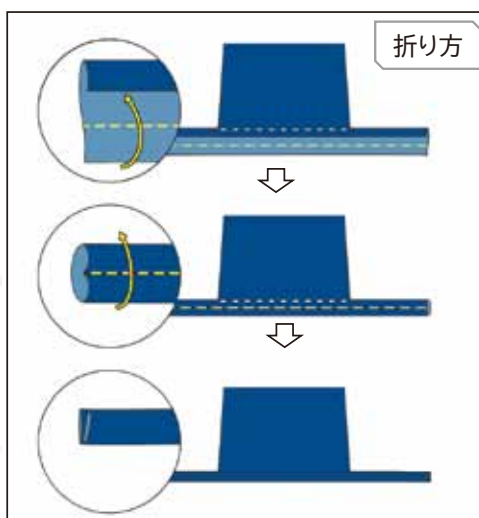


図 2

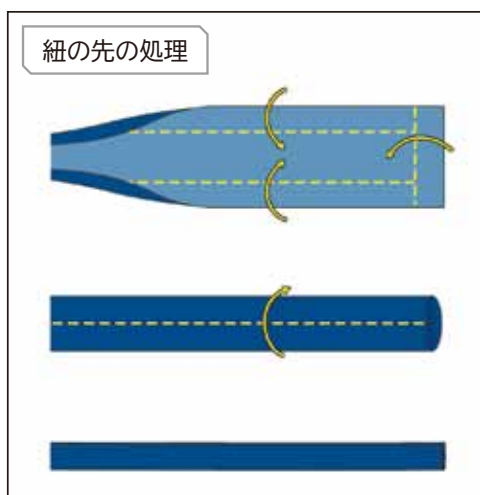


図 3



写真 13

写真 14

マチ針で留めて、幅を1.2cmに揃えます。



写真 15



図4

縫い目の糸が表から見えないようにくけ縫いをします。糸の間隔は5mmです。



写真 16

紐先は何度か往復して縫います。



写真 17



写真 18



写真 19

裾部分を1cm折り込み、形を整えます。紺布から裏地がはみ出さないように、少しだけ内側にマチ針で留め、くけ縫いをします。

### 3 オホカラ

オホカラは鎖状に縫うチェーンステッチのことです。レース糸を使用して、一本の糸でなるべく繋げるように縫います。縫い始めと縫い終わりの糸は玉留めをせず、表地と裏地の間に残します。



定規とチャコペンを使って下書きをします。この模様は30年以上前に萱野れい子さんが作った作品を参考にしています。

写真 20



図 5

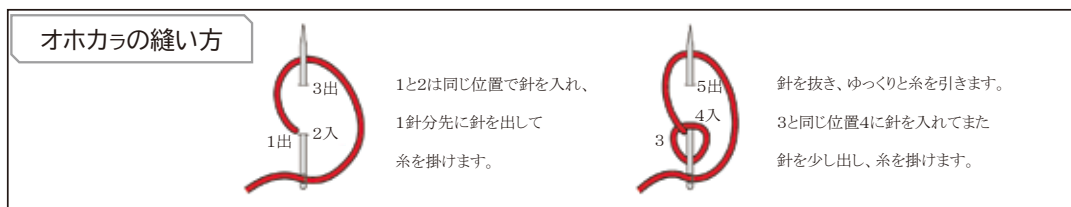


図 6



糸は強く引くと輪が崩れてしまうので、ゆっくりと引きます。

写真 21



曲げたい方向に針を入れていくことで曲がります。

写真 22



写真 23

オホカラでモレウという渦巻き模様を施します。アイヌ語でモ(静か)・レウ(曲がる)という意味で、刺繍や彫刻などに、ゆるやかな曲線が入ります。

## 4 キラウ

モレウの先端に、キラウという模様を施します。キラウとはアイヌ語で角(つの)を意味します。一説によると、尖ったキラウには魔除けなど悪いものを寄せ付けない意味があるとも言われています。



写真 24



写真 25

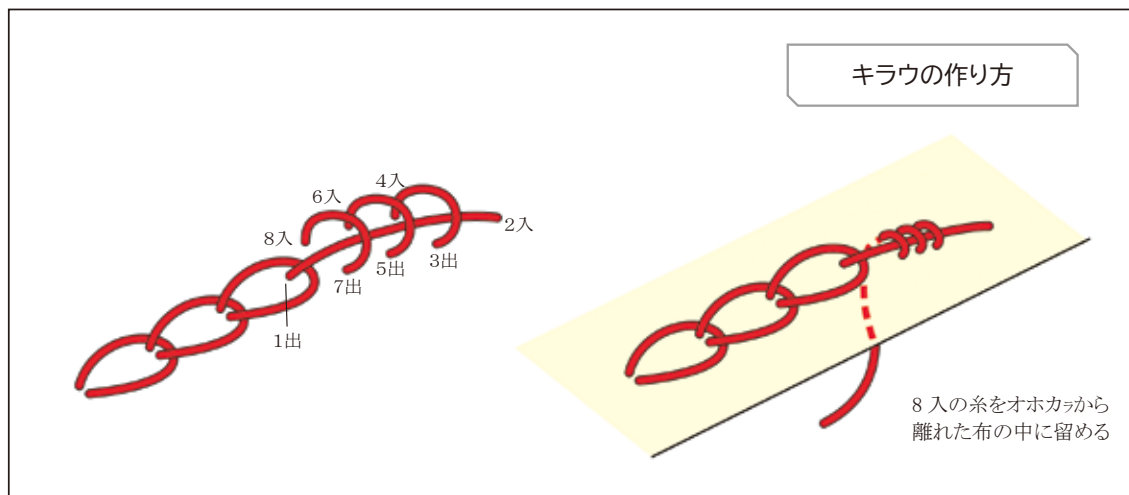


図 7



オホカラが重なる場所は、布の裏を通して縫い先に出します。

写真 26

#### 4 刺し子模様

脛の部分に施す刺し子模様です。白のレース糸を二本取りします。モレウの下になみ縫いで横に二本直線を作ります。下図のように横線から斜線の模様につなげて、一筆書きのように縫います。なお、線が重なる所は、生地の中を通して移動します。

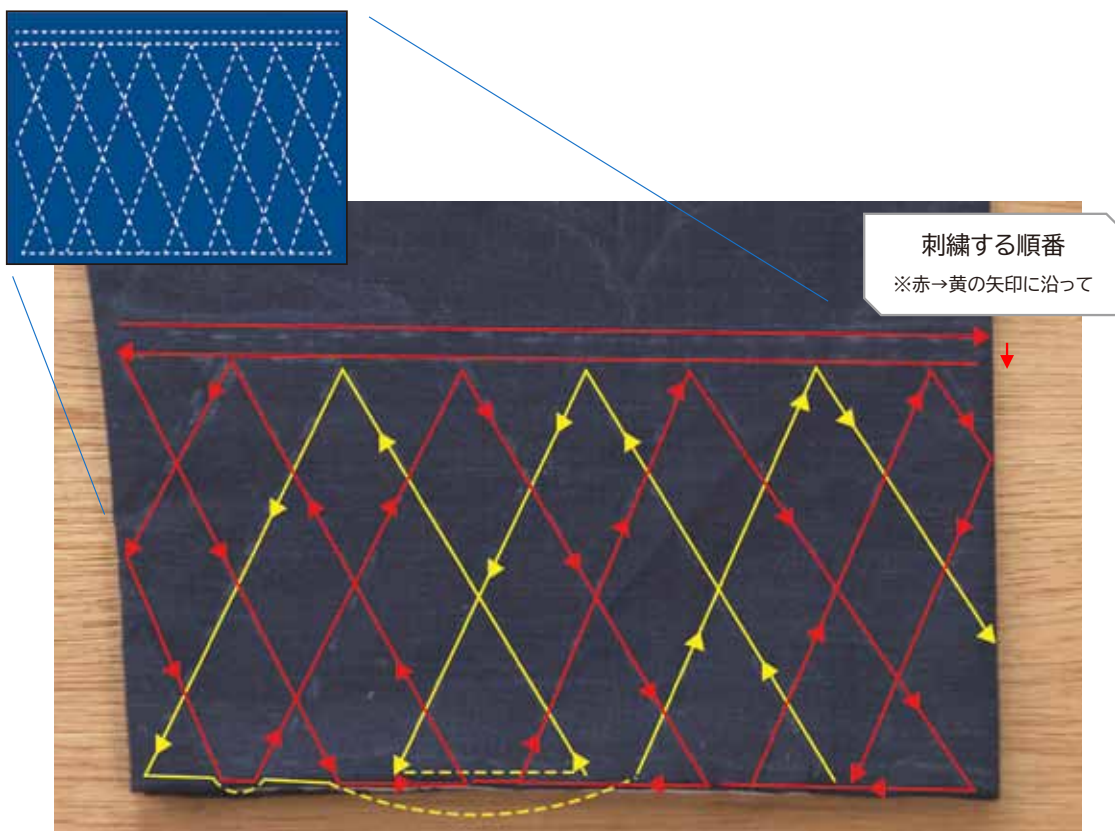


図 8



写真 27



写真 28

5 完成



写真 29



写真 30



写真 31



写真 32

## サコシ (夏用の脚絆)



写真 33

サコシは夏用の脚絆で、「サッ=夏、ホシ=脚絆」ということです。シナノキの皮をイテセ(編む)して作った、風通しのよい脚絆です。

上と下に細い紐を通したシンプルな作りで、その人の脛(すね)の大きさに合わせて編みます。

今回は縦33cm・横17cmのサコシを作成します。作成にあたっては、1975年(昭和50年)に貝澤とろしさんが製作したサコシを参考にしました。当時の材料はシナノキでしたが、今回はオヒョウを使用します。

## 材料・用具



写真 34

(両足)

オヒョウの内皮……………100g

たこ糸(白)…………… 50m程度

ピツ<sup>おも</sup>(<sup>おも</sup>錘り石)……………22個(11組)

イテセニ(ござ編み機)

針

はさみ



写真 35

# 製作

## 1 オヒョウを裂く・撚(よ)る



写真 36



写真 37



写真 38

オヒョウを長さ70cmに切り分けて、幅1cmを目安にオヒョウを縦に裂きます。目安は120本です(片足分)。



写真 39

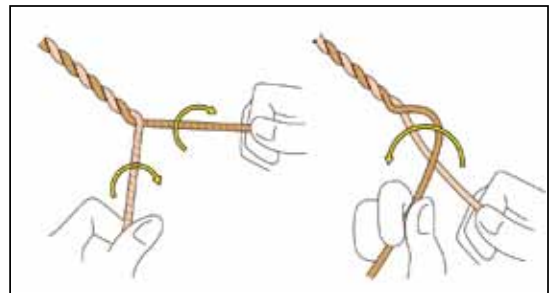


図 9

裂いたオヒョウを撚(よ)って、1本の長い糸を作ります。まず、左右の人差し指と親指を使って、正面に向かって時計回りにねじり、撚りをかけた2本の糸をさらに反時計回りに撚って、1本の糸にします。

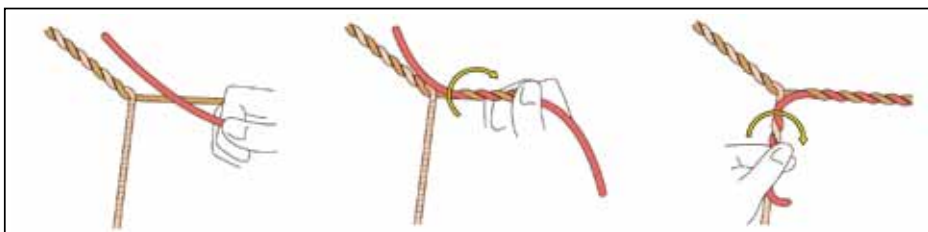


図 10

片方の糸が5cm ほどになったらオヒョウを足して撚りをかけます。(図9参照)

短い方に絡ませた後、長い方に絡めて、それから撚っていきます。

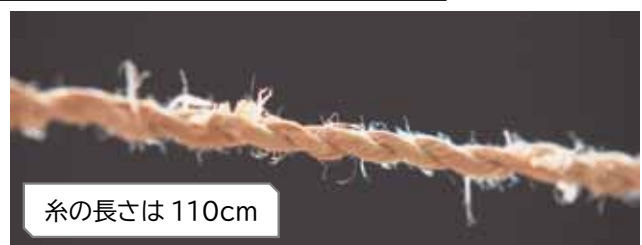


写真 40

## 2 オヒョウを結ぶ



写真 41

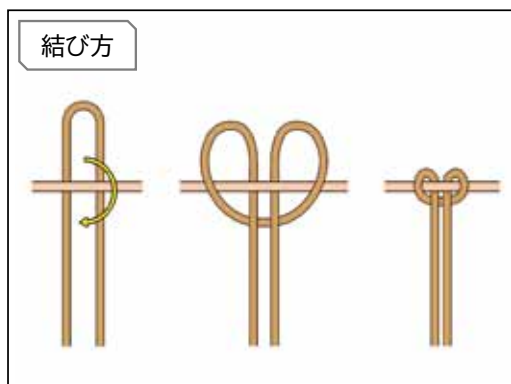


図 11

燃った糸を張って、先ほど裂いたオヒョウを結びます。



結び目がある方が裏側になります。

写真 42



写真 43

全部で105束あります。1つの結び目に2本分付くことになるので合計210本になります。この時、両側からそれぞれ15束の位置に印をつけておきます。この両端15束分が、足先にかけてすぼんでいく部分になります。太くしたい場合は中央の束を増やして下さい。

### 3 ピッ(おも) (鍾り石)に糸を巻く

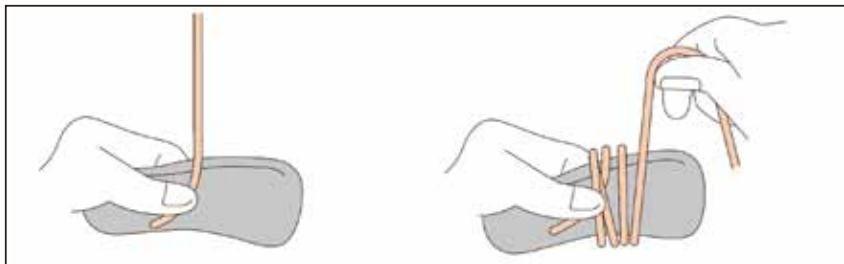
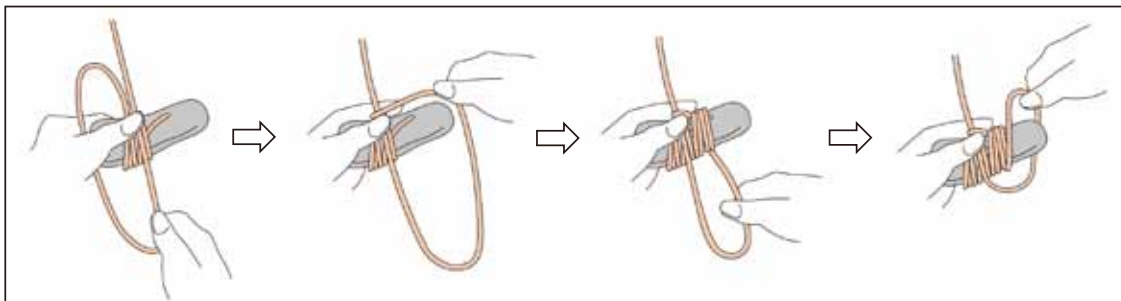


図 12

ピッ(おも) (鍾り石)を210cmの編み糸の両端に巻き付けます。今回はたこ糸を使用します。

図 13



ピッを逆さにして、編み糸の中央に近い部分をピッに当て、できた輪を全てピッに巻き付けていきます。このように巻くことで、編み糸が短くなった時に、ピッから輪を外して長さを調節できるようになります。

写真 44



写真 45



2つのピッで1組となり、全部で11組用意します。

#### 4 イテセニ(ござ編み機)で編む



写真 46



写真 47

ピツをイテセニ(ござ編み機)の溝にかけます。溝の間隔は3cmです。



写真 48

先ほど結んだオヒョウの束を写真のように置きます。この時、結び目がない表側が手前に来るようにします。



最初の1本目は全ての溝に糸を掛けます。

写真 49



2本目と3本目は5つ目の溝から編みます。

写真 50



編んでいない2本をまとめて編みます。  
減らす場合はこの繰り返しです。

写真 51



15束の印が出るまで溝4～6の間をバランスよく入れ替えながら編みます。この順番に規則性はなく、ランダムです。

写真 52

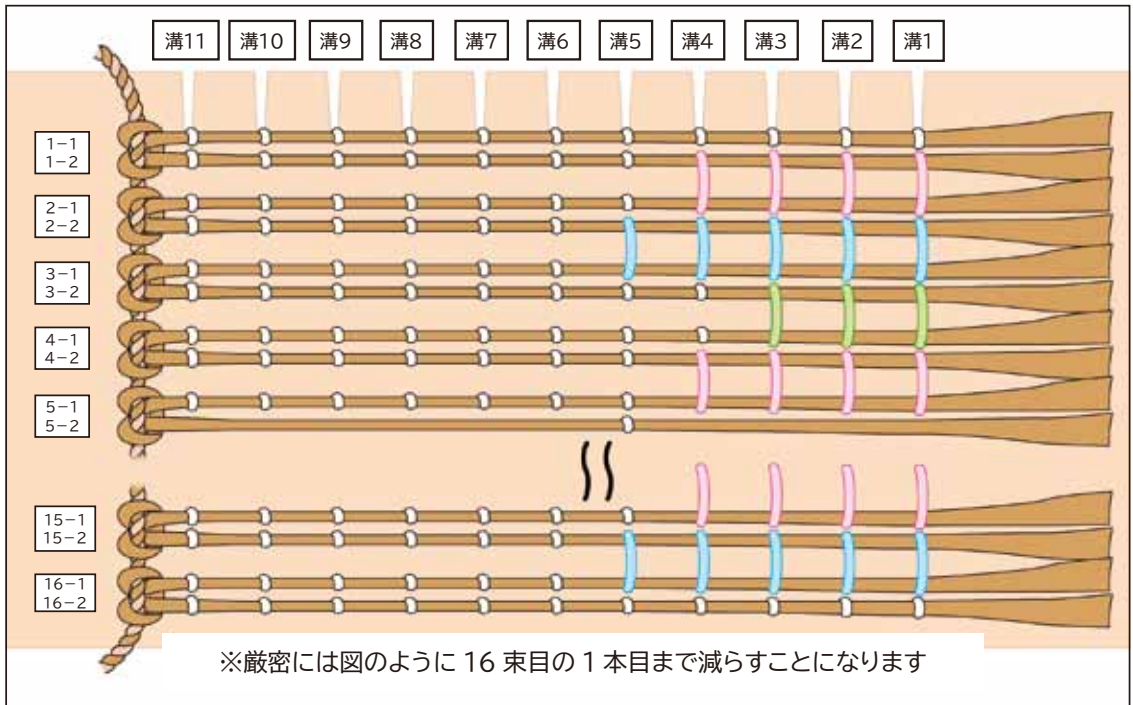


図 14



写真 53

15束分を編んだ所です。脛にかけてゆるやかに減ってすぼんでいるのが分かります。



写真 54

残り15束になるまでは減らさずにすべての溝に1本ずつ掛けて編みます。

残り15束になったら最初と同様に減らします。最後の1本はすべて編みます。



写真 55

編み終わったら、糸を一旦軽く結びます。



写真 56

結び終わったら、ピツを切り離します。



写真 57



写真 58

## 5 仕上げ・糸の始末



写真 59



写真 60



写真 61

編み終わった時に軽く結んだ糸をほどいて仕上げに入ります。筒状になるようにして、たこ糸をオヒョウの間に通して2回結びます。



写真 62

この時、つま先を入れやすいように膝にあたる上の3か所は結びません。



写真 63



写真 64



写真 65

結んだ糸の先端を3本にほどいて1本ずつ縫い目の間に縫い込みます。なるべく結んだ結び目の近くに縫い込みます。そうすることでほどけにくく、強度が保たれます。



写真 66



写真 67

結んでいない上部3か所の糸は、片側に計6本分をすべて縫い込みます。



写真 68

余った糸を切って本体を返します。



写真 69

最後に本体下部の長さを揃えます。

## 6 完成



写真 70



写真 71



写真 72

## チカミコテ（手甲）



写真 73

チカミコテは、手の平まで覆われている手甲のことです。今回は親指が離れた筒状のものを製作します。

チカミコテは、貝澤こきんさんに習ったという萱野れい子さん。今回は昔習ったものをベースに、オリジナルのデザインを加えました。長さは縦21cm・横13cmです。

## 材料・用具



写真 74

(片手)

表地 木綿布(紺) 縦26cm・横(上)34cm (下)29.5cm.....1枚  
裏地 木綿布(白) 縦20cm・横(上)34cm (下)29.5cm.....1枚

紐用の布 縦4cm・横85cm.....1枚

刺繍用の木綿糸(紺)(白)(赤)(水色)

レース糸(白)

針

はさみ

ヘラ(裁縫用)

# 製作

## 1 本体



写真 75

どちらも生地を裏側の状態にしたまま、下を揃えるようにして、紺生地の上に白生地を重ねます。1cm縫い代を残してなみ縫いします。

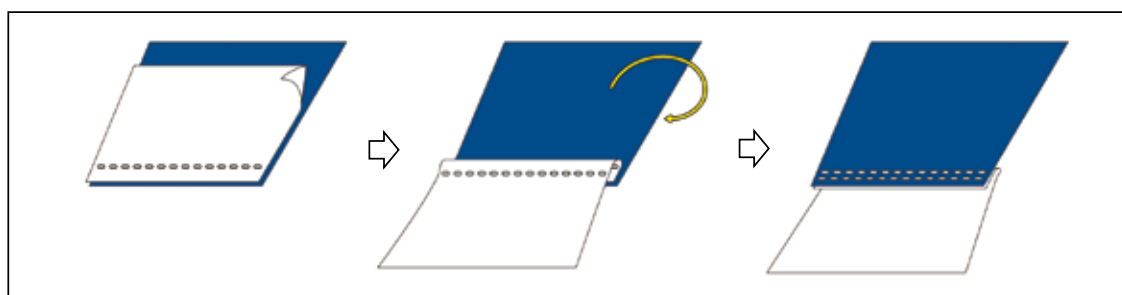


図 15

縫い目を起点に白生地を手前に返します。折り目を付けて白生地が上になるようにして、なみ縫いをしたら、そのまま裏返します。

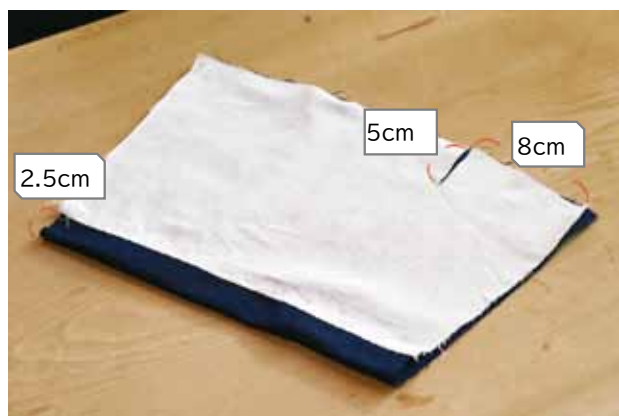


写真 76

白生地を上を持ってきて揃えます。この時、下の紺生地は2.5cmほど飛び出た形になります。

次に親指にあたる部分に5cmハサミを入れます。



写真 77

ヘラで生地内の1cm内側に印をつけます。



写真 78



写真 79



写真 80

白生地を再び手前に広げて裏返します。そして向きを変えて二つに折ります。

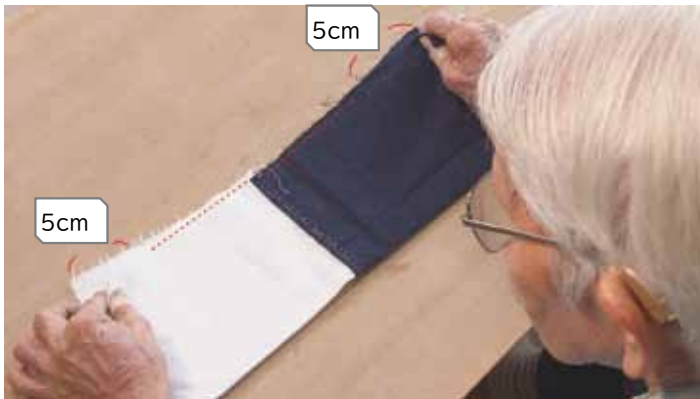


写真 81

両端を5cm残した状態で、紺生地は紺糸、白生地は白い糸でそれぞれなみ縫いをします。



写真 82

さらに指と指の間を1cm縫い代を残してなみ縫いをします。



写真 83

指の付け根部分は、やや丸みを帯びるように細かく縫います。



写真 84



写真 85

白生地を内側に入れるように裏返します。この時、指と指が分かれるように丁寧に返します。



写真 86

指の部分を内側に折り込んで形を整えます。この時、裏地を表地より少しだけ内側にします。

手の甲



写真 87

手の平



写真 88

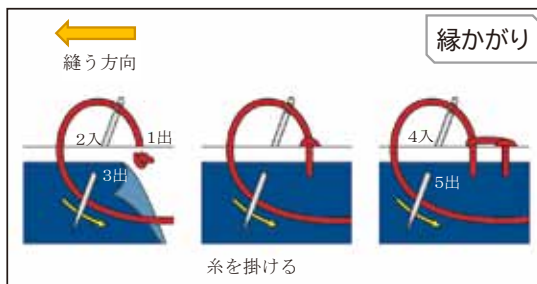
指先を仮縫いします。

## 2 指先

図 16



写真 89



木綿糸を2本取りし、縁かがり(ブランケットステッチ)をします。指先がほつれにくく強度が高まります。



写真 90

一周回ってきたら、外側に針を出します。糸は外で留めずに生地の中に入れます。



写真 91



写真 92

### 3 手の平の刺繍

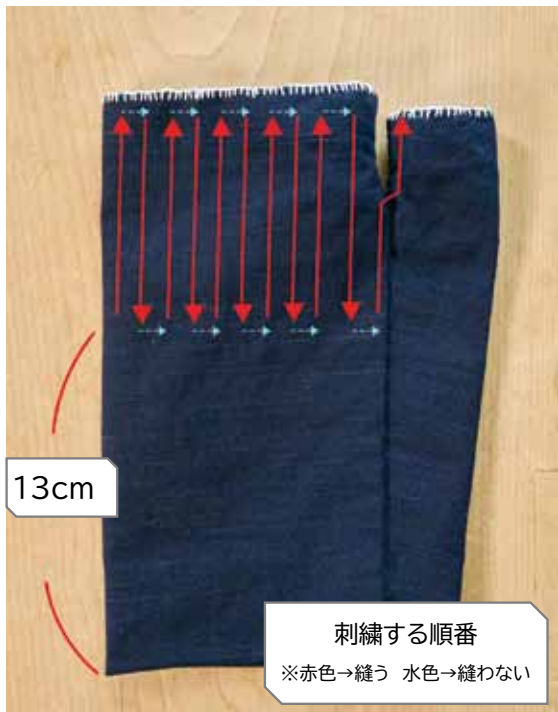


写真 93



写真 94



写真 95

手の平に直線状の刺し子を入れます。木綿糸を2本取りし、下から13cmを目安に針を入れ、角まで縫ったら折り返します。糸の間隔はランダムです。指の付け根部分は少し細かく縫います。



写真 96

#### 4 手の甲の刺繍



写真 97



写真 98

1本のレース糸で外側から糸枠を作ります。糸を切らないように繋げて縫うのがポイントです。こうすることでほどけにくくなります。なお、糸枠の上の横ラインは指先と重なるので縫いません。



写真 99



写真 100

次に赤い糸で枠の中を斜めに縫います。これも1本の糸で繋げるため、1つの枠内を縫い終えたら、生地裏側を通して次の枠へ進めます。



写真 101

左右が向い合わせになるようなデザイン。枠の中をあまり埋めすぎず余白を出すのがポイントです。



写真 102



写真 103



写真 104

水色の糸で内側の角に小さな結び模様を5か所入れます。

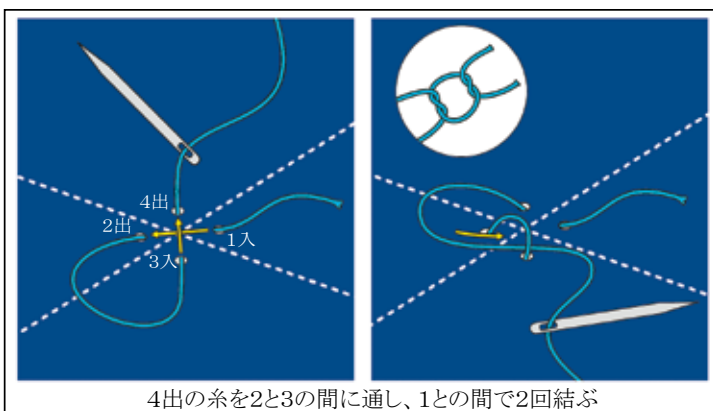


図 17

写真 105



手の平の模様が完成しました。

## 5 紐の取り付け

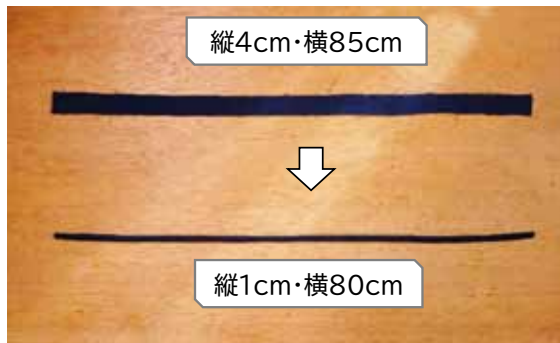


写真 106

紺の木綿生地を使って縦1cm・横80cmの紐を作ります。



写真 107

くけ縫いで紐を作ります。くけ縫いはホシを参考にして下さい。



写真 108

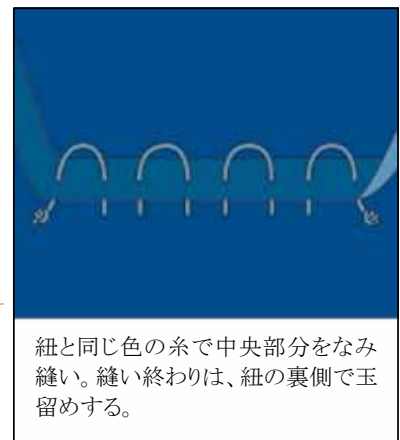


図 18

指3本分のゆるみをとって、本体に紐を2か所縫い付けます。この時、紐の縫い目は外側・下側に向きます。



紐を本体に縫い付けた範囲に、千鳥掛けで紐を縫っていきます。

写真 109

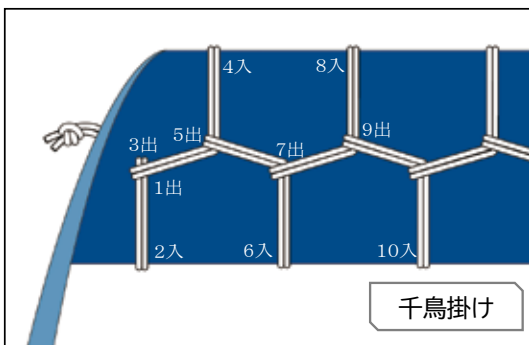


図 19



写真 110

一つの幅は約1cmです。



写真 111

## 6 仕上げ



写真 112

仕上げに中指と薬指の間に糸で境目を作ります。



写真 113

糸を4回ほど往復します。



写真 114

糸が切れないように2～3mmの太さになるまで絡めます。

絡め終わったら、玉留めをせずに少し離れた位置に針を入れて生地の中に残します。

## 7 完成



写真 115

チカミコテは、狩猟や畑仕事や旅に出る時など、労働や日常生活で幅広く使われていました。昔、年頃の女性に意中の男性ができると、この手甲に美しい刺繍をして贈りました。それは女性から男性への求愛のしるしだったと言います。



写真 116



写真 117



写真 118

## コンチ（頭巾）



写真 119

コンチは冬、狩りに行く時に頭に被る頭巾で、軽くて暖かいのが特徴です。頭から肩にかけてすっぽり覆う防寒着で、顔の中心部分だけが出ます。額の所に縫い付けてある長い紐で頭をしぼることで、風に飛ばされたり、木の枝に引っ掛かって脱げたりすることはありません。

また、機能性もさることながら美しい切り抜き模様や刺繍が施されています。

今回は縦43cm・横73cmのコンチを製作します。1972年(昭和47年)頃に、萱野れい子さんが、貝澤とろしの人さんなど近所のフチ達に教わって作ったものを参考にしました。

## 材料・用具



写真 120

表地 木綿布(紺) / 裏地 木綿布(白)

(前)縦27.5cm・横30cm (中央)縦1m・横30cm (後)1辺が27.5cmの四分円……1枚

紐用の布(紺) 縦4cm・横90cm……1枚

紐用の布(紺) 縦10cm・横1.5cm……1枚

補強用の布(紺) 縦1.5cm・横3.5cm……2枚

飾り用の布(白)(紺)(赤) 縦6cm・横6cm……1枚ずつ

さらし木綿(白) 縦2.5cm・横40cm……8本

刺繍用の木綿糸(紺)(白)(黄色)

レース糸(白)

針

はさみ

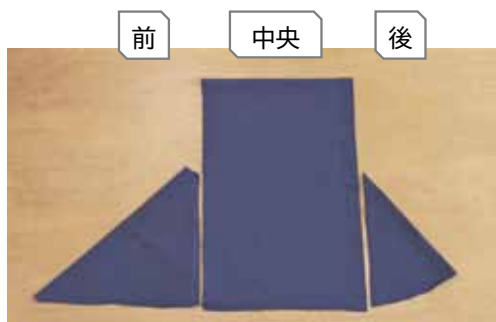


写真 121

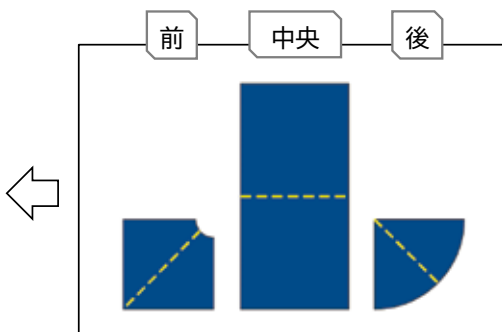


図 20

図19のように切り分けた生地を二つ折りにします。前部分の角は2cm程度切って丸みをつけておきます。

# 製作

## 1 本体

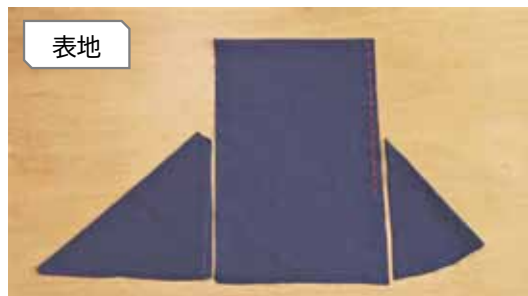


写真 122



写真 123

まずは中央の後頭部の上から半分、生地を裏返した状態でなみ縫いをします。



写真 124



写真 125



写真 126

縫った後頭部の生地を重ねて縫い代を5mm  
とって白糸でなみ縫いをします。

この時、先ほどと同様、半分は縫わずに残しま  
す。



写真 127

紺生地が表にくるように裏返します。



写真 128

コンチのベースができました。



写真 129



前頭部、額にあたる部分の縁を縫います。 上から半分を1cm折り込んでマチ針で留めます。



写真 130



写真 131



写真 132

表に縫い目が見えないように縫うので、そのまま裏返して縫い代1cm分を残してなみ縫いをします。この時、後頭部同様に下半分は縫わずに残します。



写真 133



写真 134

縫い終わったら、再び布を表に戻します。くけ縫いすることもできますが、この方が早いと言野れい子さんは言います。

## 2 生地(前・後)の取り付け



写真 135

本体に後ろの生地を取り付けます。



写真 136

本体の白生地に1.5cmほど重ねてなみ縫いをします。



写真 137



写真 138

紺生地も同様に付けますが、表地になるので裏返してマチ針で留めた後、なみ縫いして再び返します。こうすると、縫い目が隠れます。



写真 139

後頭部をゆるやかにすることで首回りまでしっかりと保護されます。



写真 140

図 22

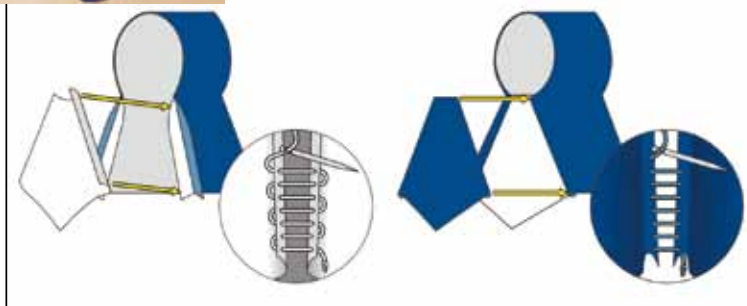


写真 141



続いて顎から胸元にかけての正面部分にも生地を付けます。後頭部同様、白色・紺色の順番で縫います。

本体部分が完成しました。



写真 142



写真 143



写真 144

コンチの襟の部分を縫います。1cm折り込んで仕付け、くけ縫いをします。この時、少し目を小さくするように気を付けましょう。

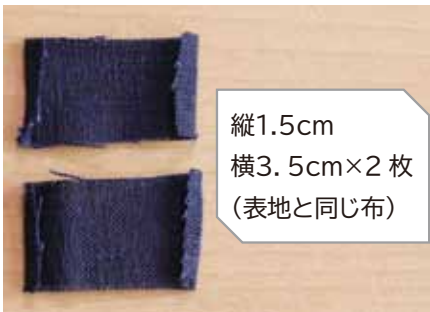


写真 145



写真 146



図 23

小さく切った布を用意して顎の部分に2か所、補強用のために取り付けます。



写真 147

切った布の表面を本体の顎部分に合わせて縫います。



写真 148

折り返して3mmの太さを目安に2折り込んでかがり縫いをします。



写真 149



写真 150

### 3 切り抜いて模様を作る



写真 151

表地(紺)を切り、裏地(白)を出して模様にします。下書きをした後、線の外側をやや広めにとって下縫いし表地と裏地を付けます。

写真 152



写真 153



写真 154



写真 155

線の中央をハサミで切ります。切った表地を内側に折り込んで、かがり縫いをします。



写真 156

角は少し丸みを付けて縫います。



写真 157

糸の間隔の目安は3mmです。

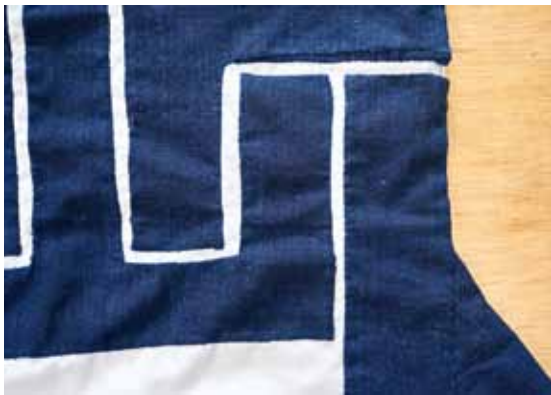


写真 158

切り抜きを終え直線的な模様ことができました。



写真 159

線の太さは5mmです。



写真 160

#### 4 バイアス状のテープで模様を作る



写真 161

さらし生地を布目に対して斜めに切断したバイアス状のテープを用意します。

布地が伸びて、なじみやすい性質があるため、上から貼り付けて模様を作る際によく使います。



写真 162

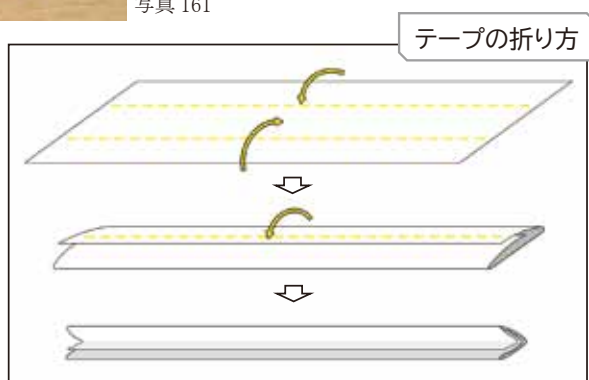


図 24

2回重なる様に折り、さらにもう一度折ります。テープの太さは7mm～8mm程度です。



写真 163



写真 164



写真 165

色の付いた糸でテープを仮縫いして繋げます。全部で3mほど用意しておきます。



写真 166



図 25

テープを横に一本貼り付け、仮留めします。直線の先には渦巻きの模様モレウです。

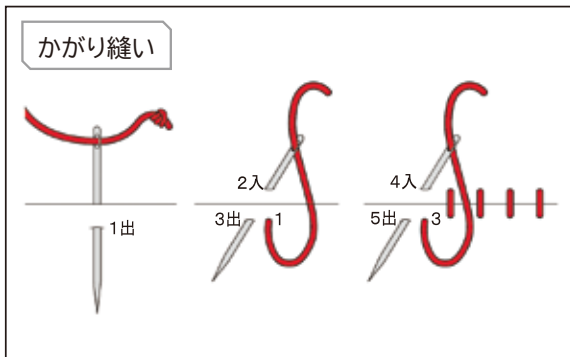


図 26

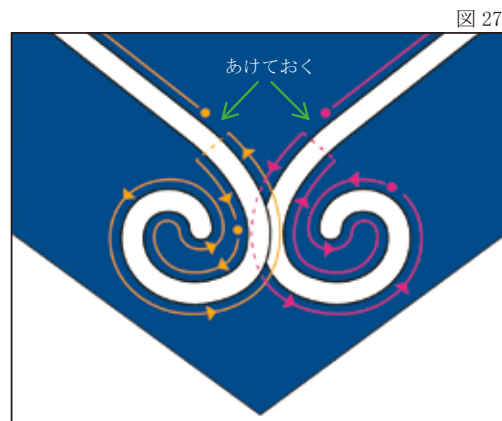


図 27

モレウの入口から縫い始め、かがり縫いをしていきます。この時、2か所だけ1cmほど縫わずにあけておきます。これは後程テープを潜り込ませるためです。



写真 167

モレウの先はとがらせるように縫います。左右対称になるように調整します。



写真 168

模様が重なる所は、中心から横断するように乗り越えます。



写真 169



写真 170



図 28

さらにテープで模様を追加します。赤枠の 2 か所はテープを埋め込む所です。



写真 171



写真 172

バイアスならではの滑らかな曲線を生かし、テープを折り返しながら往復させ左右対称の立体的な模様をつくります。



写真 173



写真 174



写真 175



写真 176



写真 177



写真 178



写真 179



写真 180



写真 181



写真 182

テープを下に潜らせた場所、テープを折り返した場所の結び目を分らないように縫います。すべての線が一本で繋がるように複雑に重なります。

## 5 刺繍

### <オホカラ>

オホカラは鎖状の小さな輪を連ねていくチェーンステッチのことです。下書きをしてから縫います。  
(オホカラの縫い方についての詳しい説明は、P.15をご覧ください。)



図 29



図 30

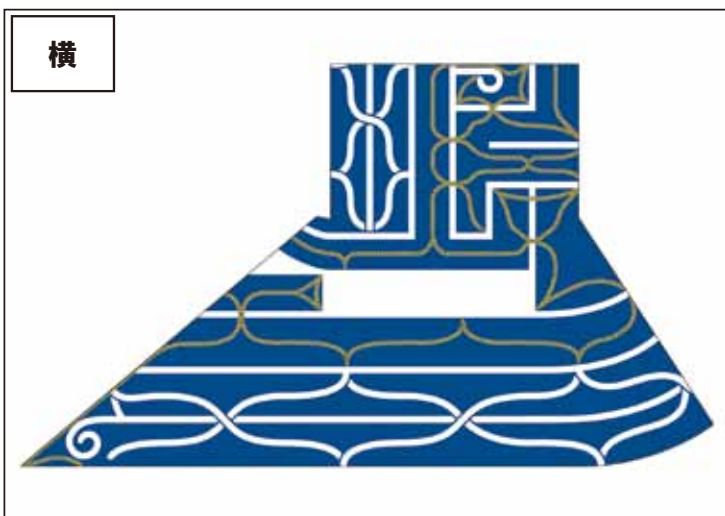


図 31

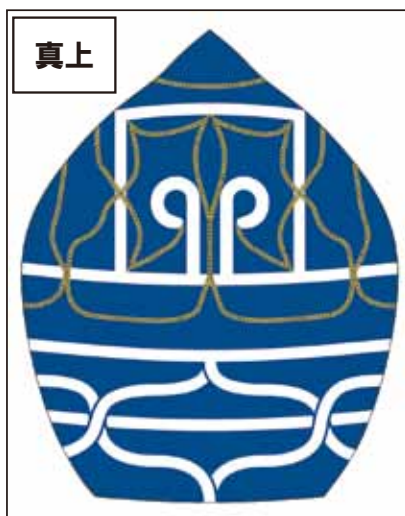


図 32



写真 183



写真 184

オホカラの縫い方はホシを参考にしてください。



写真 185

バイアステープを置いたところや、切り抜いた上にも模様が乗ります。



写真 186



写真 187

オホカラの先はキラウを施します。

キラウの縫い方はホシを参考にしてください。

## <イカラリ>

イカラリはアイヌ語で「イ(それ)・カ(上)・ラリ(押さえる)」という意味で、コーチングステッチと同じ縫い方です。



写真 188

白地の部分に大きくイカラリで枠をつくります。今回は黄色の糸を使います。

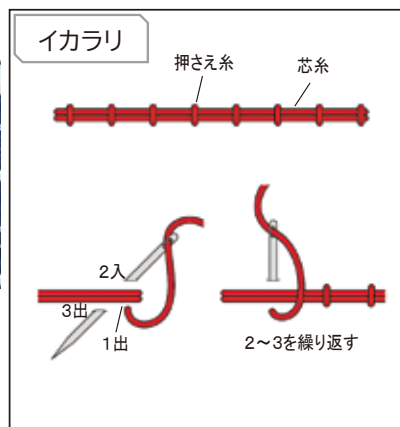


図 33



写真 189

表に出した2本の芯糸を押さえ、上から1本の糸で絡めます。



写真 190

角も同じようにイカラリを施します。糸の間隔は3mm~5mmです。



写真 191

角に少しとがりを持たせた、イカラリの枠が完成しました。

## <エタラカ>

エタラカは「でたらめ・めちゃくちゃ」という意味のアイヌ語です。大きさや方向に規則性がありません。イカリで囲んだ枠の中を黄色い糸で縫っていき、面を埋めます。



写真 192



写真 193



写真 194

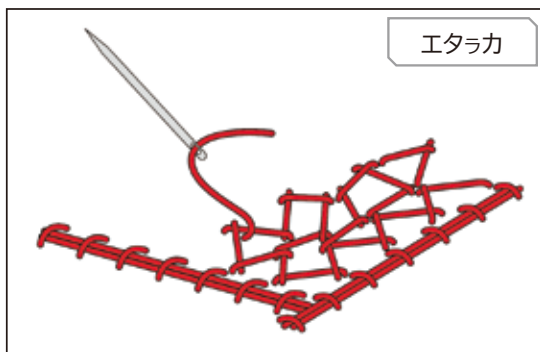


図 34



写真 195



写真 196

縦3.5cm、横5.5cm部分にかけて、エタラカを縫いました。中央に余白を作ります。

## 6 紐・飾りの取り付け



写真 197

紺色の木綿生地を用意して紐を2本作ります。

紐の作り方はホシを参考にしてください。



写真 198



写真 199



写真 200

紐を付けます。

場所は頭の方から約6cm下がった所です。

1. 5cm内側を目安に紐を置き、かがり縫いをします。



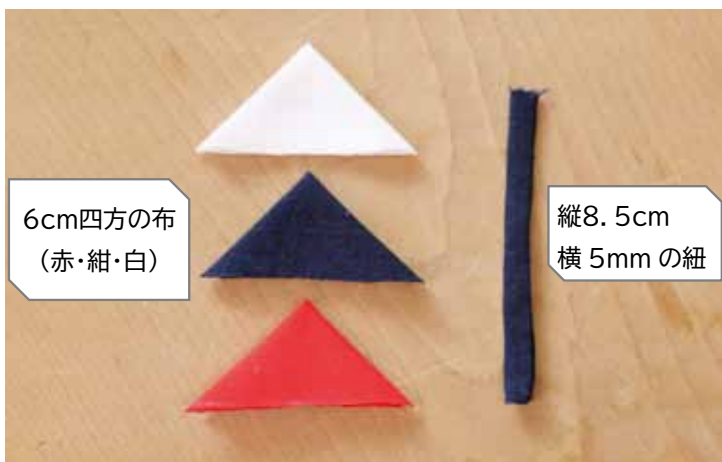
写真 201

この紐で額を交差し、後頭部を回し顎の辺りで結びます。



後頭部の先に飾りを付けて仕上げます。

写真 202



三角に2回折った赤・紺・白の生地と長さ8.5cmの紐を用意します。

赤・紺・白の順番で紐にくけ縫いをします。

写真 203



写真 204



写真 205



写真 206



写真 207

三角形の下のラインが紐と垂直になるようにします。それぞれの三角形は1.5cm離れています。



飾りをコンチの本体に取り付けます。

写真 208



頭のでっぺんから後ろにかけて約3.5 cm分を、かがり縫いします。

写真 209



二風谷では、飾りがついたコンチは、既婚者の目印になったと言われています。

写真 210

## 7 完成



写真 211



写真 212



写真 213



写真 214

## ユクウル（鹿皮衣）



写真 215

ユクウルは鹿の皮を使用した防寒着です。鹿の毛皮を柔らかく揉んで、チョッキがわりに着ます。一般に多く用いられたのは、首の所をくり取り、鹿の前足の付け根の部分の肩にかけて、そこに紐を付けたものです。肩紐と腰紐とを結び合わせるだけで、手軽に身につけられるように作ってありました。

鹿の毛皮は大変あたたかく、丈夫で汚れないものですから、とくに寒い季節の防寒着として大切なものであったと思われます。

しかし、山へ狩りに行く場合には、このユクウルを身につけていくと、鹿と間違われて撃たれる恐れがあったと言います。

今回は鹿皮の大きさに合わせて縦1m10cm・横90cmのユクウルを製作します。

萱野茂さん・萱野れい子さんが1972年（昭和47年）に製作したものを参考にしています。

## 材料・用具



鹿の皮……………1 枚

裏地 木綿生地(白)  
縦1m20cm・横60cm……………1枚

肩紐用の布(紺)  
縦10cm・横1m……………2枚

腰紐用の布(紺)  
縦10cm・横50cm……………2枚

刺繍用の木綿糸(白)

針

はさみ

定規

写真 216

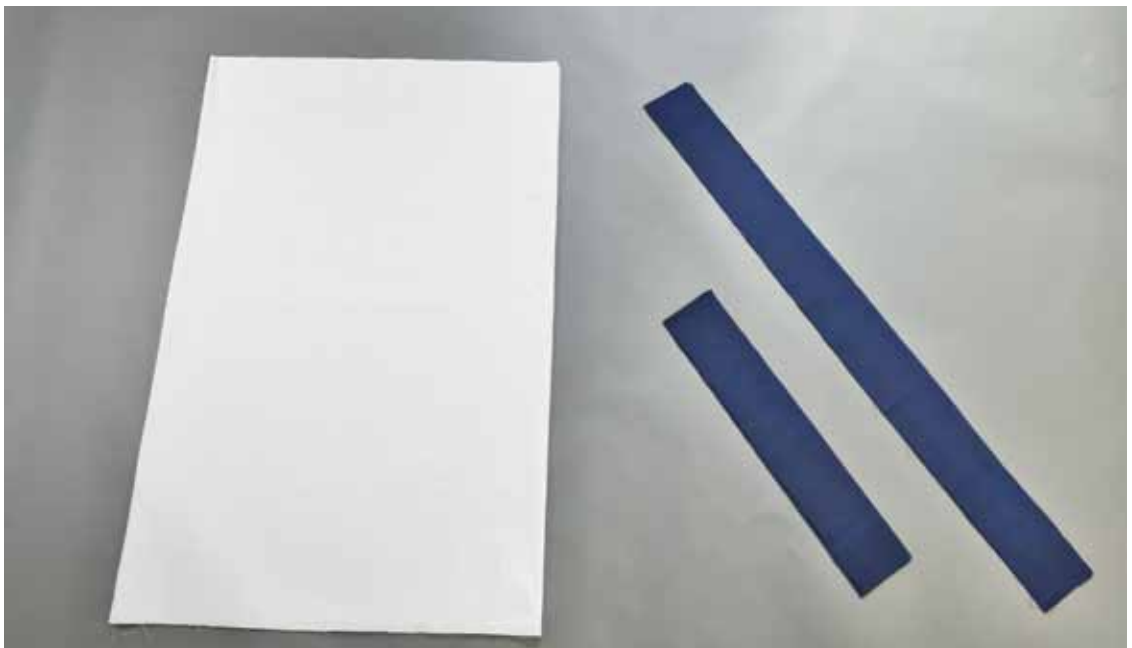


写真 217

# 製作

## 1 素材を切って留める



写真 218

まずは首元をはさみで切ります。

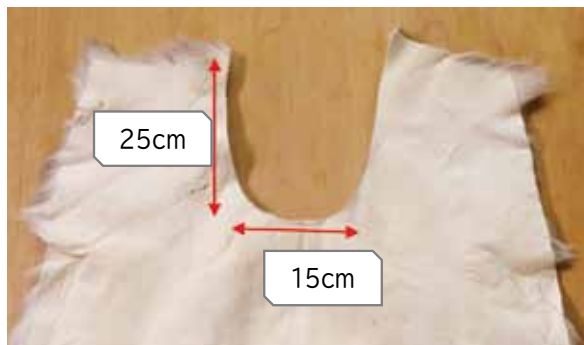


写真 219

縦25cm、横15cmを目安にバランスよく切ります。



写真 220

続いて裏地を上から被せます。



写真 221

洗濯ばさみで大まかに鹿皮に沿って縁を留めていきます。首元は細かくはさみを入れながら揃えます。



写真 222

留め終わったら3cmから4cmほどゆとりを残し、余分な所を切ります。



写真 223

切り終わりました。次に裏地を本体に縫い付けます。

## 2 かがり縫い



写真 224

鹿皮の輪郭に沿うように生地を折り込んで2本糸でかがり縫いをしていきます。



写真 226



写真 225

まず布に針を刺した後、本体と絡めます。

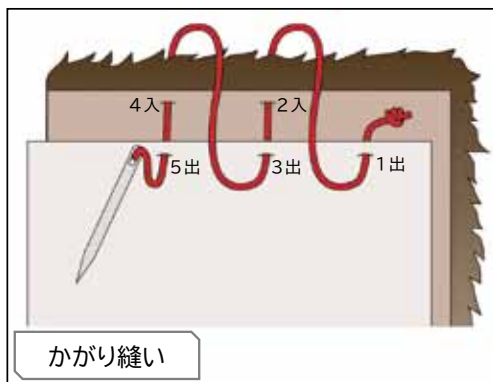


図 35

鹿の毛になるべく絡まないように毛を捲（めく）りながら針を入れます。



写真 227

特に首元は、生地がたわまないように細かくハサミを入れ、生地を整えながら縫います。



写真 228

糸の間隔は、5mmから1cmの間です。



1周縫い終わったら玉留めをします。

写真 229



そのまま糸を切らずに、縫い目の間から少し離れた場所に針を入れます。こうすることで玉留めが隠れ、ほどけにくくなります。

写真 230

写真 231



写真 232



写真 233

### 3 紐を取り付ける

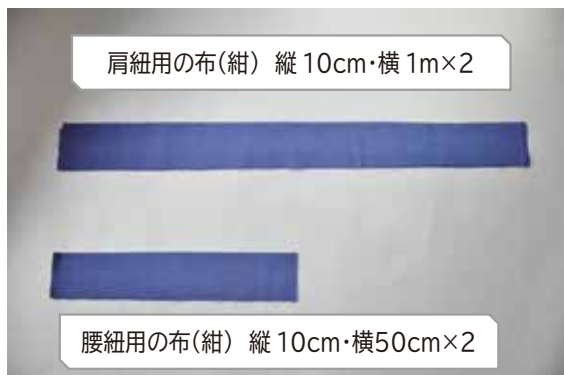


写真 234

肩と腰に通す紐を作ります。長い方は両肩、短い方は両腰に付きます。



写真 235

生地を裏側にして半分に折り、縦の一边だけ残してなみ縫いします。



写真 236

折り目をしっかりつけてから定規などの細長い道具を使い表に戻します。



写真 237

形を整え、残した一边をくけ縫いして口を閉じます。



写真 238

紐が完成しました。紐の幅がある程度大きい場合は、このような方法で作ると言います。



写真 239



写真 240

上写真を参考に、紐を通すための穴をあけます。長い紐は肩に、短い紐は腰に通します。



写真 241



写真 242



写真 243

毛を多く巻き込まないように必ず内側から外側に紐を入れます。結び目が表側、紐の先が外側に向くように結びます。



写真 244



写真 245

両肩の紐を結びました。紐を残す長さは、人の体格によって異なりますが、左右同じぐらい残すようにします。



写真 246

続いて腰に短い紐で輪を作ります。紐を折りたたんで重なる根元を縫います。  
この輪に肩紐が通ります。

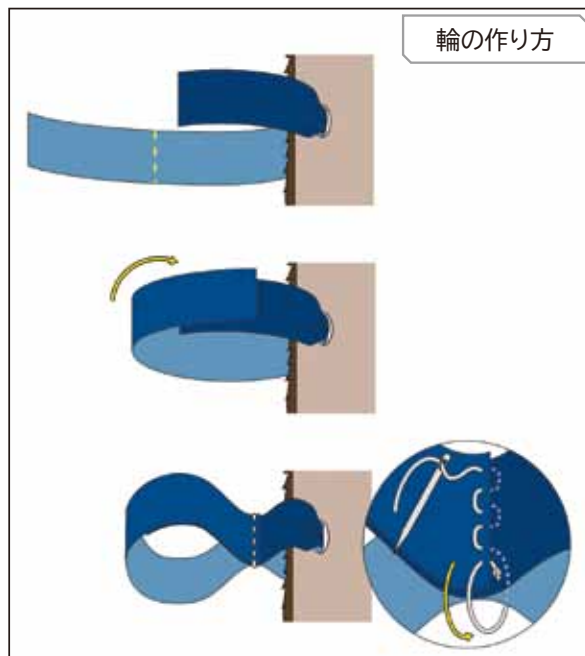


図 36



写真 247

最後に余った紐の部分を縫います。  
この時、糸が表で目立たないように縫い目を小さくします。



写真 248

腰の位置に紐を付けました。  
輪の大きさは8cmです。

## 4 完成



写真 249



写真 250



写真 251



写真 252



图 37

## おわりに

このマニュアルでは、平取地方に伝わる身を護るものの作り方を紹介しました。

この作品は萱野れい子さんが、かつて二風谷のフチたちから見聞きし習った技術を元に製作されたもので、決まった形がある訳ではありません。模様は作り手の数だけ存在し、現代的なアレンジが加わったり、素材や道具そのものも少しずつ変化しています。



萱野れい子さんは、製作の過程でよく「勉強になりました」と仰っていました。90歳を超えてなお、成長の過程であり続けることが、どれほど素晴らしいことでしょうか。それと同時に、こうした文化や精神が少しずつ変わりながらも、受け継がれ未来に広がることを祈ります。

アイヌ民族が紡いできた手仕事の技、博物館などの施設で一度ご覧になっていただき、ぜひ楽しみながら作ってください。



## 参 考 文 献

- 萱野茂  
1978年『アイヌの民具』「アイヌの民具」刊行運動委員会編 すすさわ書店
- 萱野茂  
2002年『萱野茂のアイヌ語辞典 増補版』株式会社三省堂
- 萱野れい子著・須藤功編  
2008年『写真で綴る萱野茂の生涯 アイヌの魂と文化を求めて』社団法人 農山漁村文化協会
- 田村すず子  
1996年『アイヌ語沙流方言辞典』草風館
- 一般財団法人アイヌ民族博物館  
1993年『アイヌ文化の基礎知識』草風館
- 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構  
2013年『アイヌ生活文化再現マニュアル 装身具』財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構  
2006年『アイヌ生活文化再現マニュアル 編む』財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構  
2016年『イカラカラーアイヌ刺繍の世界』公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

## アイヌ文化に触れることができる施設

アイヌ文化に触れることができる施設をいくつか紹介します。

### 道内

- 国立アイヌ民族博物館 白老郡白老町若草町2丁目3
- 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 沙流郡平取町二風谷55
- 萱野茂二風谷アイヌ資料館 沙流郡平取町二風谷79
- 函館市北方民族資料館 函館市末広町21-7
- のぼりべつユウカラの里・アイヌ生活資料館 登別市登別温泉町224
- 知里幸恵銀のしずく記念館 登別市登別本町2丁目34-7
- 苫小牧市美術博物館 苫小牧市末広町3-9-7
- 新ひだか町博物館 日高郡新ひだか町静内山手町3丁目1-1
- 新ひだか町アイヌ民俗資料館 日高郡新ひだか町静内真歌7-1
- 浦河町立郷土博物館 浦河郡浦河町字西幌別273-1
- 幕別町蝦夷文化考古館 中川郡幕別町字千住114-1  
(改修工事のため閉館中。新施設は令和8年に開館予定)
- 帯広百年記念館 帯広市緑ヶ丘2
- 釧路市立博物館 釧路市春湖台1-7
- 弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館 川上郡弟子屈町字屈斜路市街1条通
- 北海道立北方民族博物館 網走市字潮見309-1
- 網走市立郷土博物館 網走市桂町1丁目1-3
- 名寄市北国博物館 名寄市字緑ヶ丘222
- 旭川市博物館 旭川市神楽3条7丁目 大雪クリスタルホール内
- 川村カ子トアイヌ記念館 旭川市北門町11丁目
- 北海道博物館 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
- サッポロピリカコタン 札幌市南区小金湯27
- 北海道立アイヌ総合研究センター 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7ビル

### 道外

- 東京国立博物館 東京都台東区上野公園13-9
- 国立民族学博物館 大阪府吹田市千里万博公園10-1
- リバティ大阪（大阪人権博物館） 大阪市浪速区浪速西3丁目6-36
- 天理大学附属天理参考館 奈良県天理市布留町1
- 松浦武四郎記念館 三重県松阪市小野江町383

アイヌ生活文化再現マニュアル

身を護るもの

平取地方

2023年3月 発行

発行 公益財団法人アイヌ民族文化財団



企画・制作  
公益財団法人アイヌ民族文化財団